

2022年度事業報告書 (2022年9月-2023年8月)

特定非営利活動法人
フードバンクセカンドハーベスト沖縄

1 事業の概況

長引く感染症の影響により、フードバンクへの需要は高い水準で続き、毎週の依頼平均は400名強、多い時で週に750名あまりの食品依頼が来るなど、感染症流行前に比べ2.4倍の増加となった。

5月以降の感染症5類以降後も、不安定な社会情勢の影響による物価高騰が加わり、7月末には依頼に対しての食品ストックが大幅に不足し、8月には個人世帯向けの依頼に対応できなくなった。活動経費は182%と大きく上昇し、経済活動が活発化し始めると食品寄付や活動費への寄付は減り続け、先の活動の見通しがたない状況となり、苦しい活動が続いている。

人員
事務スタッフ 4名
ボランティア 13名

会員数 64 名

	法人	個人
正会員	16	11
賛助会員	16	21
合計	32	32

2 各事業の報告

(1) 食品回収事業

①食品の取扱い量

提供先	件数	重量(トン)
企業寄付(食品取扱企業)	555	108.87
団体寄付(一般企業や学校等)	233	38.51
個人寄付	345	3.56
購入(助成金)	34	8.47
合計	1,167	159.41

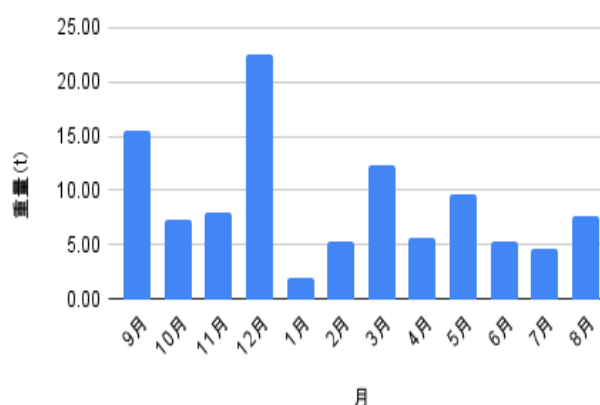
* 団体・個人寄付のうちフードドライブ: 103件、約5.58

* Amazonみんなで応援プログラムを通しての寄付(延べ86件、約398.80kg)

寄付食品の月別データ

	月	件数 (件)	重量 (t)
R2	9月	105	15.53
	10月	90	7.25
	11月	104	8.02
	12月	137	22.45
R3	1月	81	1.88
	2月	88	5.28
	3月	118	12.4
	4月	95	5.71
	5月	89	9.7
	6月	86	5.34
	7月	87	4.65
	8月	53	7.66
総数		1133	105.9

食品寄付の月別データ(トン)(R4.9月-R5.8月)



3 広報活動

- ① ホームページやSNSの活用
 - ・ ホームページ
 - ・ Facebook (フェイスブック)
 - ・ Instagram (インスタグラム)
 - ・ X (旧ツイッター)
- ② 講演会・研修等
 - ・ かりゆし長寿大学講義
 - ・ コープおきなわ役員研修
 - ・ あっぷる保険社員向けの講座
 - ・ 豊見城市図書館 「発信する図書館」講演会
 - ・ ごはんといのちのストーリー展
- ③ 各種イベントへの参加
 - ・ トータルビューティー & 生活支援等相談会
(フードバンクの紹介、フードドライブ実施)
 - ・ ゆいれール祭り2023 (フードドライブ実施)
 - ・ デポカップバスケットボール大会 (フードドライブ実施)
 - ・ ティラノサウルスレース (フードドライブ)
- ④ メディア
 - ・ 2023年 2月 6日 Be Kind OKINAWA SDGs事例紹介
 - ・ 2023年 3月31日 エフエム沖縄「Talk Home Party イッピンモチヨリ」
(その他、企業主催の贈呈式等の取材あり)

4 助成金・補助金・委託事業

【食品購入関連】

- ・ 新型コロナウイルス感染症対応市民活動チャレンジ助成事業 (那覇市)
食ま〜るプロジェクト「食べ物から生まれる安心感と人とつながりを家庭に届ける」
- ・ 公益財団法人 日本フィランソピック財団
食ま〜るプロジェクト ~ちゅふあーら (まんぶく) サポート~
- ・ 沖遊協パチンコ・スロット助成事業
長期化しているコロナ禍における緊急的な食品購入事業
- ・ 令和4年度歳末たすけあい募金助成金
食ま〜るプロジェクト「たすけあい米」事業
- ・ 2022年度労働者福祉事業等助成金
食ま〜るプロジェクト「県外食品を沖縄へ運び有効活用する事業」
- ・ りゅうちゃん子どもの希望募金助成事業 (令和5年度事業)
新年度スタート生活応援事業
- ・ 令和5年度なは市民活動支援事業
高校生世代を含むこどもの食支援継続サポート事業
- ・ 日本フィランソピック 令和5年まんぶく基金
未来の子どもたちも支える~ちゅふあーら (まんぶく) サポート2023~事業

【補助金】

- ・農林水産省フードバンク支援緊急対策事業（第3期）
- ・農林水産省フードバンク活動団体の食品受入能力向上支援事業（第1・2期）
- ・【一律支援型】 うちなー事業者応援金
- ・沖縄県 令和5年度子ども未来応援成事業
フードバンク活動基盤支援事業

【委託事業】

- ・令和4年度 農林水産省フードバンク活動強化緊急対策委託事業 沖縄ブロック
 - * 情報交換会の開催（2回：宮古島・石垣島/ 那覇市）
 - * 専門家派遣
- ・令和4年度（補正）農水省補助事業フードバンク活動強化緊急対策事業 中核団体受託

5 その他の活動

- ・第15回フードバンク・シンポジウム
- ・第5回 フードセーフティネットシンポジウム
- ・沖縄県子どもの居場所ネットワーク会議
- ・沖縄子ども未来県民会議
- ・埼玉フードバンクパントリーネットワーク視察受け入れ
- ・沖縄国際協カプラットフォーム協議会

6 会計報告

① 活動計算書

[税込] (単位: 円)

NPO法人 フードバンク2h沖縄

自 2022年 9月 1日 至 2023年 8月31日

【経常収益】

【受取会費】

正会員受取会費	245,000	
賛助会員受取会費	136,000	381,000

【受取寄付金】

受取寄付金		7,801,998
-------	--	-----------

【受取助成金等】

受取助成金	7,771,588	
受取補助金	3,241,392	11,012,980

【その他収益】

受取利息	46	
雑収益	1,396,740	1,396,786

経常収益計 20,592,764

【経常費用】

【事業費】

(人件費)

人件費計	0
------	---

(その他経費)

諸謝金	4,191,952
会議費(事業)	32,032
旅費交通費(事業)	366,620
車両費(事業)	408,938
通信運搬費(事業)	433,495
消耗品費(事業)	258,047
修繕費(事業)	101,441
水道光熱費(事業)	208,618
地代家賃(事業)	4,951,650
賃借料(事業)	5,000
保険料(事業)	36,280
支払手数料(事業)	78,756
雑費(事業)	17,897
食品購入費(事業)	4,820,736
黒糖購入費(事業)	162,000

その他経費計 16,073,462

事業費計 16,073,462

【管理費】

(人件費)

謝金	970,000
人件費計	<u>970,000</u>

(その他経費)

会議費	12,920
車両費	22,997
通信運搬費	88,417
消耗品費	72,081
修繕費	16,500
水道光熱費	185,294
地代家賃	990,330
減価償却費	339,235
保険料	279,180
租税公課	30,200
支払手数料	40,208
雑費	100,329
その他経費計	<u>2,177,691</u>

管理費計

3,147,691

経常費用計

19,221,153

当期経常増減額

1,371,611**【経常外収益】**

経常外収益計

0

【経常外費用】

経常外費用計

0

税引前当期正味財産増減額

1,371,611

当期正味財産増減額

1,371,611

前期繰越正味財産額

5,567,196

次期繰越正味財産額

6,938,807

② 貸借対照表

NPO法人 フードバンク2h沖縄
全事業所

[税込] (単位: 円)
2023年 8月31日 現在

		《資産の部》	
【流動資産】			
(現金・預金)			
手許 現金		109,556	
普通 預金		8,512,950	
現金・預金 計		<u>8,622,506</u>	
(売上債権)			
未 収 金		200,000	
売上債権 計		<u>200,000</u>	
(有価証券)			
有価 証券		120,206	
有価証券 計		<u>120,206</u>	
流動資産合計			8,942,712
【固定資産】			
(有形固定資産)			
什器 備品		566,100	
有形固定資産 計		<u>566,100</u>	
(投資その他の資産)			
敷 金		1,350,000	
投資その他の資産 計		<u>1,350,000</u>	
固定資産合計			<u>1,916,100</u>
資産合計			10,858,812
		《負債の部》	
【流動負債】			
前受助成金		2,920,005	
流動負債合計		<u>2,920,005</u>	
負債合計			2,920,005
		《正味財産の部》	
前期繰越正味財産		5,567,196	
当期正味財産増減額		1,371,611	
正味財産合計		<u>6,938,807</u>	
負債及び正味財産合計			<u>9,858,812</u>

8 課題

- ① 行政等からの依頼数、取扱量が増加し、人員や運営費、食品不足がこれまでにないほど深刻な状況。
- ② 活動資金を集めることや、フードバンク業務（食品を保管と分配）に時間をかけて取り組む必要がある。
- ③ スタッフの長時間労働や個人保証のない活動にも限界がある。
- ④ 今後の活動継続のためにも、様々な課題を整理し急務な活動体制と食品利用先についても見直しが必要。
- ⑤ 物価高騰により、活動維持費にも負担が増えている

9 今後の展望

2023年度は、厳しい活動のスタートとなるが、活動の在り方を見直し、今年度の事業展開を以下のように勧めていく。

- 1 地域コミュニティとの協力体制の強化：地元企業、地方自治体、その他ボランティアなど、さまざまなステークホルダーと緊密な連携を図り、地域全体で支援体制を広げていく。具体的には、行政窓口など連携団体への活動理解を深める会議や相談を行う。どのようなボランティアが必要かの定期的な募集や参加できるイベントの作成。
- 2 さまざまな資金調達方法の確保：ひっ迫する活動資金を助成金や寄付金に頼るだけでなく、持続できる資金調達策を確立していく。具体的には、定期的なクラウドファンディングやGoogleの非営利団体向けのプログラムの活用、物販販売、資金業務の（助成金）人員を増やすなど。
- 3 食品寄贈量の増加：まだフードバンクに寄付をしたことがない、地元食品企業などから発生する未利用食品を回収し、取扱量を増やす。具体的には、地元の新規食品企業等への企業訪問等回数を増やしていく。企業向けちらしの作成。
- 4 情報発信と教育活動：地域社会において、まだ認知されていないフードバンクの内容や役割を広く認知させるため、効果的な広報活動を展開する。具体的には、これまで通り法人アカウントのSNSを活用し、さらにHPのリニューアルを行い活動周知を図る。さらに講演会等においてフードバンクの重要性と協力を求める。
- 5 その他：現在の地域や団体の課題を適切に分析し、現在できる最大限の資源を活用し、目標やミッションを戦略的に効果的に行っていく必要がある。具体的には、限られた食品を有効活用することと、その食品を使用する場所や先の選定など、現状の活動を全員で理解し、統一意識をもって事業を進めていく。

2023年度は、事業の大幅な見直しを図り、地域で食品が必要なニーズにあわせ、効果的でわかりやすい事業を展開し、活動の透明性と信頼性を保ちながら事業を進めていく。